

# 6. 座談会開催報告

直近10年の卒業生を中心に、編集委員で座談会を開催した。座談会ではざっくりばらんな各自の四年間の振り返りにはじまり、編集委員から提供したテーマをもとに議論を深めた。

## 1. 概要

**日時** 2011年11月26日

**場所** 藤家@日吉

**参加者 23名**

高井貞夫 (S36卒)

宮地昌彦 (S56卒)

草場律 (S60卒)

坂根洋介 (H18卒)

広田崇、小池徹 (以上H19卒)

中村翔一、坂根宏志 (以上H20卒)

和栗恵 (H21卒)

福崎淳一、石岡陽平、中津哲彦、中村卓磨、中畷優、本田聖子 (以上H22卒)

真栄城優、船矢竜太、本田裕士、清家薫、石川陽菜 (以上23卒)

野村和秀 (現役4年)、阪本暁洋 (現役2年)、寺内俊樹 (現役1年)

※現役は座談会開催当時の学年

## 4. 結果

## 2. 目的

座談会では、ここ10年を振り返りながら、

A.参加者が(1)感情や考えを共有する(2)議論を通じて、考察し学びを得る、の2つを目的とし、また

B.部誌で座談会をページを読んだ人(OB、現役、他大学関係者、入部希望者)が1.共感し、2.学びを得、3.魅力を認識する、のいずれかの感情を抱けるようにする。

## 3. 開催形式

3班に分かれてワークショップを行った。

A班:高井、広田、中村翔、石岡、中畷、真栄城、石川、野村

B班:小池、坂根宏志、和栗、中津、中村卓磨、清家、阪本

C班:宮地、草場、坂根洋、福崎、本田聖、船矢、本田裕、寺内  
ワークショップでは10年の変化点から見る慶應バド部と題して今後に向けて各人が思うことを整理した。

	10年で感じた変化点	いつごろからか	なぜ変化が起きたと思うか	なぜそういう状況になったか？	変化がもたらした長短
A班	1. 部員数増加	1. H18	女子カリスマが入部したため	女子学生が入りやすい雰囲気があったため	男女別で練習効率UP 人から教えてもらえる確率が上がった  コートを十分に使える時間が減った
	2. OBの部活参加者数が増えた	2. H19	現役時代の仲が良くなったため 若手コーチが増えたため	厳しいトレーニングによって一体感が生まれたため フロントの意思	
B班	部員数が増えた 男女セパレート 女子部員が増えた	H18	高校生とのコネクションが築けていたため 部の雰囲気がよくなったため	勧誘活動(練習会、オリエン)による効果が出てきたため 部員のベクトルがそろってきたため	練習でのコンディションがよくなった。  レベルのばらつき、まとまりにくい
C班	早稲田とのレベル差が益々大きくなった	H19年	創立125周年に合わせて早稲田にスポ科が創設されたため。 慶應AOによる強化が出来ていない。	競技力強化資金が増えたため。 バドミントン部の歴史が体育会他部に比べて浅く地位が低いいため、AOを獲得できない	学生トップレベル選手と戦えるありがたみ  収益がないこと 人材を集める予算がない 慶應が気おくれしている

## 5. 結論

直近10年の卒業生を中心に、参加者個々人が今度どのように行動していくかという行動指針を立てるに至った。

## 6. 座談会開催報告

直近10年の卒業生を中心に、編集委員で座談会を開催した。座談会ではざっくばらんな各自の四年間の振り返りにはじまり、編集委員から提供したテーマをもとに議論を深めた。

## 6. 各自の行動目標

	行動指針
石川 陽菜	女子高生がどうやったら入りたいか現役とのコミュニケーションのなかで伝えていく、現役の相談に乗る
真栄城 優	JKに対してバドミントンの真の姿を伝える、JKとのコミュニケーション力を磨く、小澤・川口に勝つ
広田 崇	女子の練習相手になるビジターを連れていきます、練習でたくさんアドバイス、練習の参加頻度をふやす
野村 和秀	同期に比べて暇なので週に二回いきます
中村 翔一	金を払います、慶應女子からの入部に対し一人二万円払います
中嶋 優	現役にダブルスの俺の長所を教える→勝つ→強いチーム→惚れる
中村卓磨	日吉に行きます
坂根 宏志	自分の母校を中心に部活を紹介し、高校のときから練習に参加してもらいコネクションをつくる
和栗 恵	現役に負けない現役の発信にリアクションする
小池 徹	松下さんに勧誘してもらおう。光井、山口、渋谷に勧誘させる八木と阪本を开花させる、お酒の飲み方を伝授
清家 薫	現役が発信する情報を見る
中津 哲彦	部の発信する情報から分かる課題を現役に伝える
船矢 竜太	休日に練習に行く
福崎 淳一	移動車を寄付する
寺内 俊樹	40年後に中等部の顧問になる
本田 裕士	指導者経験を積んで将来的に慶應に戻ってくる



座談会当日の写真